

# その47 高塚

(平成17年8月1日号—第238号)

市内には文徳[もんたく]天皇の第1皇子であった惟喬親王[これたかしんのう]にまつわる言い伝えが幾つか残されています。その一つが今回紹介する高塚町で、昔は鷹塚山と呼ばれていました。平安時代、枚方は貴族の遊獵地として知られていました。惟喬親王もたびたび訪れ、在原業平[ありわらのなりひら]らとともに狩りや花見を楽しんだと伝えられています。あるとき、親王のかわいがっていた鷹が死んでしまい、枚方丘陵で最も高いこの地に葬ったことから、後に鷹塚山と呼ばれるようになったというのです。



80 鷹塚山(高塚町)

ところで、鷹塚山は、現在造成されて従来の地形から大幅に改変されていますが、残された景観から古墳だと考えられています。発掘調査の結果、その周辺から、弥生時代後期の集落遺跡も見つかっています。さらに、吉備[きび]地方(岡山県)独特の分銅形土製品が出土しており、遠く離れた吉備との淀川を介した交流をうかがわせます。



81 鷹塚山遺跡出土分銅形土製品

江戸時代には淀川を一望できる景勝地であった鷹塚山。現在は、周辺の住宅開発で、景色はさま変わりしましたが、淀川は今も昔も変わらず、悠々と流れています。